京城新報

●新聞代 [illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 四月二十日
發行兼編輯人 印刷人 秋山忠三郎
京城西署西小門通
發行所 京城新報社 電話六六三番

副統監としての曾禰子(下)

翠山生

▲長州人で薩州人▼

子爵は世人も知つて居る通り長州人であるダガ什麽いふ都合か一寸も長州人らしい所がない、寧ろ薩州人ともいふべきである、其の度量の磊落ち付きに落ち付いて居る所其のデレッとして血の廻りの鈍いやうな態度は實際横から見ても縱から見ても薩州人と外思はれない、彼の便佞利巧翼々として小事に拘泥し、惱々焉として世間の毀譽褒貶を氣に病むやうな一般の長州人とは全然其の性格を異にして居る、餘計な事だが此の點に於ては彼の大浦兼武氏とまるで反對である、大浦氏は生れは薩州でも、宛として長州人の俤がある、世人が此の兩人を品評して異様なる氣風の比較として目して居るのも無理はない、而して子爵は彼の松田正久氏とよく酷似して居る、其の酷似して居る點は其の性格でなく、其の態度と大臣の様である、松田氏が其の古狸の人間化せし如き骨董品然たる妙な顔を内閣に飾つて置かないと何となく廟堂の上が一種の雅趣に乏しいやうな氣がすると同じ事子爵も亦假令其の大臣の器に適して居るや否やはサテ置てヤハリ一個の様として閣員の地位に据らなければならぬやうになつて居る而して子爵が閣員の地位は毎時大藏大臣であるが其の任に就く毎に例の不言不得要領の狐馬主義で結構無難に遣つて除けるのは實に不思議だ、

▲よく策言を容るゝ▼

子爵はよく幕僚の言を用ひ建策を容るゝとかのことだ、さうかといつて彼の所謂清濁併呑天濶うして鳥の飛ぶに任せ海廣うして魚の躍るに任する底の宏量があるのとも違ふらしい、マヅ一口に言ふと牛に曳かれて善光寺詣り的でツマリ有力なる部下の腕一ツで什麽にもなるのである、ダカラ自分としての獨創の意見とか論策とかに至つては何物も無いらしい宛から山中の洞穴の如くである、而し子爵は此の空漠たる洞穴の中に常に何物をか秘藏してあるかの如く裝ふて居るから豪いではないか、日外斯ういふ面白い話しがある、丁度子爵が桂内閣の時代に大藏大臣として廟堂に立つて居つた際に或る部下を呼んで今後の財政方針に就ての打ち合せをした、すると其の部下なるものは沈吟多時にして、子爵に向ひ「ソンナラ男爵(當時男爵)斯うしやうではありませんか」と言ふと、子爵は早速さうしやうと答へた、部下は其の返辭の怪訝にして寧ろ滑稽なるに思はず噴き出し「男爵さうしやうと被仰つた所で什麽なさるのですか私は開口單にソンナラ斯うしやうと言つた許りで未だ何事も申しません」と一番揶揄ふと子爵も哄然と笑ひながら「イヤ大概君の言ふ事が前から善さそうだから、さうしやうと答へたのだ」と言つた事がある思ふに是れにて子爵が善光寺詣り的であるといふ事が分るのであらう、

▲副統監としては不適任▼

前にも述べた通り子爵は萬事善光寺詣り主義であるから、一方の親玉としては適當であるか知らぬが或る親方の下に立つ人物としては、全然不適當である、殊に神經過敏なる伊藤統監の下には、到底長く其の地位を保つ事は出來ぬマサカ伊公から韓國今後の施政は什麽しやうと問はれたときに、副統監として「七六ケ敷い事は何分よろしく願みまさア」と答へる譯にも行くまい、又殊に辛辣なる腕の人を要する昨今の韓國にありては所詮子爵は其の器でない、單に政治上系統の配合から其の任に居るといふ事は韓國昨今の形勢上實に無意味な次第である恐らく子爵御自身ですらも衷心這般の消息は解して居るかも知らぬ、

▲喉丈は要領を得て居る▼

子爵は萬事不得要領であるが喉丈は確かに人並より要領を得て居る、其の宴席に於て傍らの藝者に三味線を彈かせ、微醉氣嫌で端唄やら都々逸を謡ふ事があるが其の時の聲といひ、節回しといひ、實際旨いものだ顔を見て聴いて居れば、薩張聲の配合が取れぬが蔭へでも行つて聴いて居ると、まるで可憐なる、人の雛妓が謡つて居るやうで、イキナリ獅噛み付きたくなる、號は西湖と稱して端唄都々逸を作るさうだが却々佳作もあるとかの話しだ(了)

小品文

選者 翠山生

門外の樂園

赤門前 神嵩生

嗤漢城 糞尿の都、塵埃の街、今日此頃の旱天、少しく風ある時は眼も開けず、勿論口も鼻も息きへ出來ず、寧ろ跡を郊外に曳かんと東門外に遊ぶ、門外半里既に別天地清涼の氣自ら迫る、松林あり草原あり、木根に腰を下ろし、自然を眺めつゝ呑氣なる韓農夫の悠々たる耕働を見る、日頃の欝憤個に去るの心地せらる、殊に木の根や雜草の間に靈花の謙遜らしく咲けるぞゆかし之れに對して古郷のこと抔思ひ出されると共に

「古里の野邊見にくれば昔し我が妹とすみれの花咲にけり」

の異潤の歌に聯想し思はずホームシックを起す、されど城外半里の外は僅に浩然の氣を養ふに足る、閑あらば糞尿の都、塵埃の街を去つて、門外に遊べ、而して自然の美に接せよ、

評 筆致優雅雅號の通神韻の感あり

南大門の孤立

御成町 白葦生

南大門足下、足下が兩袖は既に遺憾なく截されたり足下の姿容は愛に益々珍異を加ふるに至りぬ孤峭獨立賴り少なきは夫れ足下昨今の境遇乎、足下が李朝五百年の間春風秋雨些の恙なく鋭意南門の守りに任せし絶大なる功績は世人の見て以て偉とする所然るに時勢の變遷は愛に端なくも足下の兩袖を截斷し足下をして唇破れて歯寒しの感を抱かしむるに至らんとは、予輩悵然として轉た同情の感に堪へず而も恐る足下孤立の運命は風打沐雨必ず近き將來に於て朽ちざらん乎を足下以て如何となす、

評 着想勁拔大に同感

嫁入仕度

本町 白揚女史

妾は電話交換手です朝から夜迄働いても貰めて呉れる人はありません其癖小言は隙間なしです月給はと申したら日が僅か三十錢か四十錢ホトヽヽ厭やになります併し之も一家の事情から已むを得ません恥かしながら兩親が嫁入り仕度の出來る迄辛抱して呉れと申しますから却て難有奉職して居りますがマサカ兩親の言葉に甘へで自分の物許り買ふ譯にも參りませんソレでも母さんは慈みの深い昨夜押入れの行李をソッと開けて見たら繻珍の丸帶と縮緬の長繻絆がソレに丸髷の笄迄も……

評 遠からず花婿殿が見ゆるでせう

選者曰く種類は何んでも構いませんからドシヽヽ投書しなさい本欄は高尚なる讀者諸君の娯樂場です

忍戀

夏子

わがこゝろ、なくさめかねつ、いたつらに、われもいをさまさる、櫻川、ちるをおしまぬ、ものながら、逢見し、夜半の睦言に、しのひし袖も、染川の、その色香さへ、うつくしく、そめぬるからは、いまはたゞ、人にもそれと、踏余川、ひとりむねのみ、片淵の、ふかくなりゆく、思川、たもひにしづむ、きのふけふ、一日二日を、まちわひて

しのぶこゝろの、長柄川、たへぬれもひに夜なしの、夢にこそ見め、うるはしく、さける花にも、まさりたる、そのれもかげの、うつり香の、ゆかしく匂ふ、吉野川、よしとみてしも、あだなれや、さはさりながら、會瀬川、流るゝ水の、へだてなく、又のあふ瀬も、あるものを、しのびかねつゝ、かしの實の、ひとりこゝろに、しのびこそすれ、

わが戀る、きよき心の、鏡川、きみならずして、たれかうつさむ

小說 新不如歸(十四)

篠原嶺葉著

西脇は母の様子と妹の百合子を唯ある一室に集めて。「實は今來てる人は、理學博士で評判の高かつた尾花敏秋と云ふ人の息子で、陸軍の歩兵少佐です、まだ年齢は二十六七ですがなかヽヽ敏腕家と見て、現今では參謀本部の參謀官だそうです、所が妹を何處でか見て貰ひたいと云つて、自分が其話に來たと云ふのですが、何と返辭を爲たもんでせう」と、相談しかくれば、百合子は唯俯向いて羞かしさうに聞いて居る、母の様子は微笑を浮べながら、

「まあ面白い方があるもんだね、自分のたい嫁さんを貰ふに自分が貰ひに來るなんて一体甚麼風采の方だね。」

「風采ですか、風采は實に立派なもんです背はスラリと高し、顔なんか書に描いても、あゝ云ふ顔は描けるもんぢやありません、軍人とは思へんほど色も白し、細長いぴんとした顔に美しい髭を延ばして、大抵な女は耻かしくて側に寄れない位です。」

「まあ、那樣立派な方なんかね、だけれどもお前百合子の頑固な事は知つてゝ在でだから、其事を云つてゝ斷り申して下れりや宜かつたに」

「いや、それは有仰るまでもない、妹が今日までの事情は概略話したのですが、風采も立派だが、風采ばかりぢやない、其の物の言様から總ての態度、まだ二十七八で少佐で參謀官を勤める所などを見ると、實に將來賴母しい男ですから、貴方と妹に一應話して見た上に爲やうと、それで御相談するのです。」

「いくら私等が宜いと思ふても、肝腎の當人が承知しなかつたら爲方が無いぢやないか。」

「そりや大きに然うです。」云つて、側に聞いて居る百合子に對ひ。

「ね、百合さん、今聞いてる通り、お前を是非貰ひたいと云つて、しかし當人自ら來てるんだが、どうだ行く氣はないか。」と、母も側から口を添へて。

「あんまり何時までも頑固な事ばかり云つてると、世間の口は喧しいもんで、あれ彼處の娘は何處か不足で嫁入が出來んの此處が片輪で嫁入が出來ないのッて、碌な事はられない中に、どうせ一度は何處かへ行かなきやならん身だから、少々の不足は辛抱して、行つて見る氣は出ないかね。」

母と兄が交るヽヽ辭を盡して勸むれば、百合子は少しばかり頭を擧げて。

「阿母樣も兄樣もどうぞ勘忍して下さいまし、これまでは全然く私が惡かつたんですが、貴方方にまで御心配かけて相濟みませんでしたが、もう今日限り決して我任意は申しませんから、どうぞ宜いやうに御相談なすつて下さいまし。」

云つて耳の根元までパッと紅くした。母と兄とは、二三年來頑固を言通した百合子が、俄に優しく承知したゆゑ、如何した事かと、互に顔を見合しながら、議話は。

「では、先方へ約束するが、後で可厭なんて云ふ事はあるまいね。」

「もう那樣我任意は申しませんから、どうぞ御約束なすつて下さいまし。」

さ、判然と答へた



京城新報

三たび伊藤統監に與ふ

伊藤統監閣下、余輩は亦しても尊威を冒瀆して更に卑見を提供するの必要を感ず、是帝國の對韓政策に於て眞に前途を憂慮すればなり、野人禮に嫺はず直言直筆禮を失するの嫌あらむも、唯至誠の存する所を看取せられ寛大の許容を得ば幸なり。

閣下の祖國に於ける功勞、其施政の實驗に富めることは何人と雖も識認する所なり、然れども對韓政策に於ては實驗尠く、韓國上下の事情にも精通せられず、故に閣下の爲す所は一も二も良全なりと認むる能はず、惟ふに對韓政策に於ては恐らく余輩は閣下に對して尚一日の長あることを確信す、以是余輩は所信を述て閣下に誨る所あらんとす、請ふ其不遜を咎むる勿れ。

余輩は閣下の懐柔策に反對せり、而も痛言苦説其非を鳴らしたりき、然るに閣下は更に顧慮せられず、熱誠なる忠言は空しく埋沒せられむとしたりき、暴徒の跋扈何時鎭定すべきか其際限なきを看取せらるゝや、玆に心機一轉せられ一擧討伐の議を決す、是尠くとも懐柔策の非を悟られし一端なり、然れども閣下は韓國統治てふ全体に於ては未だ斷然たる意志なきものゝ如し、是れ余輩と意見を異にする所なり、閣下と余輩の爭點は全く玆にあり、庶幾くは胸襟を披て之を研究せむ乎。

閣下昔日の雅懐を以て野人の言を聞く亦徒爾なしとせず、世は益々進歩せり、唯我獨尊の獨天狗は閣下の爲に取らざるなり、閣下が維新當初の頃、大隈井上等と築地に梁山伯を結びたる當時を追懷せよ、其活潑輕快の行動心氣の爽かなるを覺ゆ、茶碗酒を被り一時間にして決すると云ふが如き、フランネルの單衣を着たるまゝ主務省に出仕し、廟堂の重要議も門衛に誰何せらるゝ如きは敢て珍しからざりき、此意氣ありてこそ明治政府は大業を成就したり、余輩は閣下等の斯擧動を快とすると共に、其急激なる論策を容れて實行の任に衝りたる、三條、岩倉、西郷、大久保、木戸の雅量に推服嘆美せずんばあらず、時勢は推移して閣下は今や其經綸を進言するの人にあらず、況や韓國統治に於てをや、事情に通じ經綸あるものゝ説に聽かざる可らず、南州、甲東、松菊の雅量なかる可らず、聞く閣下は頃日懐柔策の非を稍々悟れりと、果して眞ならば帝國の幸なり、然れども余輩は閣下の性情より推して之を疑はざるを得ず、若し夫れ閣下にして懐柔策の非を眞に自覺せられなば、我海外政策史上特に色彩せらるべき時は近きに來るなり、懐柔策の徒爾なるを自覺すれば、今一歩にして我對韓政策の根本義を解決し得べきなり。

閣下の統監政治が韓國民に歡迎せられざるは事實なり、更に之を懐柔せんとすれば却て益々不平を抱くに至るべし、韓國民は閣下の愛撫的政策に悦服するものにあらず、反對に閣下を輕侮する勢を示し來るべし、歴史は明に之を語り、事實は之を現象せるにあらずや、閣下の明敏なる之を看破せざるの理なし、然るに閣下の政策常に之に反す、鹿を逐ふの獵夫山を見ず、局外より見て分明なることも、其局に衝りてはまゝ誤ること多し、之れ建策者諫爭者を要する所以なり。

閣下世界の大勢を考察し、東洋現時の狀態に及ばゞ對韓政策を完ふするの急を感ぜざる乎、韓國政治に愛撫的体度の無効なるを了解せらるゝに於ては、閣下と雖も必ずや解決の機微を會得せむ、之れ余輩が進言して共に研究せむと欲する所なり

●對星樓茶話

△迫害者曰く彼等の言論は朝鮮人の爲めに謀れり、曰く彼等は守舊派と相通じて私利を謀れりと、餘りに人を馬鹿にした言と謂ふべし、斯る徒輩の爲めに辨解を爲すは男兒の耻辱也。

△言論を目的とせるものもあり、又手段とせるものもあり、京城に來りて言論を目的とする程未だ落魄せざる積りなり。

△暴徒鎭壓の方針定まれりと聞く、此上は其成功を祈る。

△最善なる手段を行ふ積りなりしも、今は最惡の手段を取らざる可らざることあり、假令へば平坦なりし道路は洪水の爲めに破壞されたりしにより危險なる山路を攀おることあるが如し。

△暗鬪は政事家の狀態なり、善言すれば名譽の決鬪なり、惡言すれば利害の侵害防衛なり。

△韓人の口吻より漸く暴徒鎭壓不成功の冷笑を聞くこと稀なるに至れり、是れ恐らく韓人の醒覺の兆なるべし。

△漢城市民に自治制を行はしめば、次には國會建設の請願運動を爲すに至るべし、彼等の内には板垣翁以上の自由民權論者あり。

△統監も時々歸朝せらるゝことあり、新聞紙も亦た發行停止を命せらるゝことあり。

△ボイコットを怖れざるの外交は鴨綠江森林問題をも解決し得べし、北京政府は今尚ほ長白山下に於て外交の一大懸値を牢守しつゝあり。

△亡命者は想勢政路に頓殺せられたりしを後悔せりと。

△暴徒の種類を調査するに、黄海平安に在りては敎會の關係を有し、咸鏡に在りては獵師馬賊の關係を受け、全羅に在りては強盜の類と化し、慶尚江原に於ては儒生と相關連し、忠淸京畿に於ては兩班土豪と相關係す、是れ自ら八道氣質を代表せるの狀態ならずや。

東京電報

▲新議員の種別

總撰擧の結果は新選に係るもの百八十一名再撰されたるもの百五十九名付て代議士たりしことあるもの廿九名にして新聞記者たるものは廿四名なり

▲遭難者遺骨着す

松島遭難者の遺骨は本日着し海軍大臣以下二百名出迎ひたり

▲撰擧法違反者

本日迄警保局に達したる報告に依れば今回の總選擧に於て選擧法違反者の撿擧されたるもの百四十六件其人員七百八十一名にして之を前期に比するに三十七件人員三百四十七人を增せり(以上十九日發)

雜報

●警官増員の必要

日韓警察合併の結果多數の日本人巡查を採用し各地に在勤せしめたるも現今日本人巡查の總數は一千六百九十八名にして是れを昨年調査したる韓國人口九百七十八萬一千六百七十一人に割當てる時は五千七百六十人に對し一人の比にして別に韓人巡查三千五十七名を加ふるも人口二千五十七名に對し巡查一人の割合なり日本に於ては平均市街地は八百人地方は五百人に對し一人の割合にして全國如何なる小村と雖も一人の巡查駐在せり然るに韓國に於ては三百三十三郡中今尚日人巡查の駐在せざる郡五十郡ありて日本の大村に對比すべき面數四千三百十六中巡查の駐在せるは皆無の有樣なり今人口のみを基礎として日本に比するも現今に數倍するの巡查を要す況んや言語人情風俗を異にせる地に如斯少數の警官を以て而かも地方民心の擾亂せる際に當り其の治績の擧らざる寧ろ當然なり軍隊憲兵隊の如きは暴徒の討伐を目的とするものなれば各地に小部隊をなし賊徒現はるれば隨て之を討ち以て其任務を全ふするを得べきも警察は常に偵察搜索に努めて危險を未發に豫防すべき任務を有し殊に討伐隊行動の後地方の秩序を回復し安寧を維持するに努めざる可らず此の任務を全ふせしめんと欲せば少くとも此の上尚五千人の增員は必要なりと云々(某氏談)

●訴訟手續法の内容

新裁判所開廳迄に民刑事の訴訟手續法を制定する事となり法部に於て新任法官諸氏が審議中なりし事は既報の如くなるが漸く終了に至りたるを以て近々内閣會議に上し統監府の承認を經たる上發布せらるゝ筈にて其の内容は日本現行法を參酌し韓國の現狀に照して制定せられ民事の如き日本の不干涉主義と干涉主義とも云ふべき韓國の現狀との兩者を折衷し可成的法官に融通の餘地を與ふる方針を執れりと云ふ

●刑法の修正

韓國の現行刑法は不備の點少からず修正を爲すべき點あるを以て新裁判の開廳前に修正法律を發布する筈にて目下法部に於て此れが修正案を審議中なりと云ふ

●日本辯護士公認に就て

日本辯護士を韓國裁判所に公認するや否やに關しては當分絕對に干與せしめずと云ひ或は無條件に認可すべしと說き當局者の意見一致せざる由は曩に報導し置きたるが今確かなる筋より聞く處によれば事件によりては日本辯護士を必要とせざるものあるべく或は日本辯護士に干與せしむるを以て便宜とする場合あるべし故に此の問題は一定不動の規定を設けず當該裁判官をして便宜に應じて許否せしむる事となるべし

●執達吏に就て

新裁判所の設置と共に執達吏を置かるべきを豫想して其の任に當らん事を望める者ある由耳にしたるが今當局者の談によれば民事の執行事務に關しては別に專任の官公吏を置かず或は書記をして或は警察官をして或は地方郡守其の他をして便宜執行せしむる方針なりと云ふ

●新裁判所開廳延期

大審院以下の新設裁判所は六月一日開廳の豫定なる旨曩に報導し置きたるが法規の制定其の他開廳の諸準備豫期の如く進捗せず到底六月一日に開廳するを得ずして今日の處開廳は七月一日なるべし

●増遣隊入城

暴徒討伐の爲め増遣されたる步兵第二十三聯隊は既に夫々任地に就きたるも步兵第二十七聯隊は風波の爲め着期遲延したるが愈よ昨日仁川に着したるを以て同地一泊の上今明兩日の軍隊輸送列車にて入城することゝなりたれば京城民團に於ては今明兩日間南大門停車場に於て列車着每に煙火を打揚げ居留民は各戶國旗を掲揚し歡迎の意を表すると云ふ

●第二十七聯隊の着仁

豫報の如く第七師團所屬第二十七聯隊の兵士千五百餘名は昨朝上陸夫れ〳〵宿舍に就きたるが其一部は一泊直ちに入京し殘りの一部は二泊の上仁川を出發する筈なり

●日貨排斥の檄文

其の筋に於ては暴徒討伐の爲めに更らに少なからぬ兵員を渡韓せしめ着々勦討の實を擧ぐべしと唱ふる今日暴徒の與黨同臭味の輩は各地に陸梁出沒して良民を苦しめつゝあることは記す迄も無き所なるが彼等は近來愈血迷ひたりと見え義兵大將李康守の名を以て京城各所に日貨排斥の檄文を頒配し其の文に依れば我が日本は韓人の倶に天を戴く可らざる仇敵なりとか或は民の血續くる稅金を日本政府に醵斷するとか頑冥なる言行を臚列したる後ち若し日貨を購買使用するものあらば燒棄すべしなど脅喝しあるは頗る噴飯事に屬すと雖も去るにても統監旗の飜る下に於て彼等が殆んど公然とも云ふべき態度を以て斯かる檄文を配頒するに至れるは其筋の威信を無視したる行爲にあらずや

●暴徒討伐情報(軍司令部着)

△五月十五日議政府東北約二里の地に於て我荷物護衞伍長已下三名は約五十の賊に遭ひ之を擊退す賊の死傷不明我上等兵一名負傷す

△公州守備騎兵隊は賊魁一名及賊徒一名公州東方約五里の地に潛めるを偵知五月十一日之を捕獲す

△忠淸北道丹陽守備隊より出したる下士已下十一名は五月八日丹陽北方約五里半の地に於て員數不明の賊を襲ひ其七を殪し若干を傷く

△仁川警察署より海賊の狀況取調の爲め出したる日本巡查二名韓巡查二名は五月十日水原西南方南陽の西方約八里の海中にある仙才島に於て賊船一艘を認め之に射擊を加へ一名を殪し若干を傷く

●南韓鐵道の起點

昨年以來富尾技師等の測量中なりし南韓鐵道は愈よ鳥致院を以て起點となし燕岐、公州、論山、江景より龍安、咸悅の野を過ぎ裡里附近に出で同地より北約一里の地點を群山への分岐點とし夫より金溝金堤の間を井邑、長城、光州、羅州を經て木浦に至る全線百六十哩を本線とし裡里附近より群山に至る十六哩餘を支線とするものにて其布設は日本政府に於てなすや民設にするかは未定なりと

●善隣商業學校の近況

明治町なる善隣高等學校に本宿校長を訪ひて同校の近況を聞く本校は大倉喜八郎氏の寄附金と韓國政府の補助とにより設置せられたる韓國財團法人にして日韓兩國の商家の子弟及び商業に從事せんとする者に須要なる商業教育を施し實務的人材を養成するを目的とし本科研究科速成科夜學專修科の四科あり目下は本科及び夜學專修科の二科に生徒を收容し本科の修學年限は二箇年にして修身、日語、算術、簿記、商業要項、商業實踐、商業地理、商品、法律、經濟等の諸學科を授け一學年生五十二名二學年生三十一名あり兩學年生共韓人にして年齢十四才以上二十八才以下なるも殆んど既婚者にして未婚の者は五六人に過ぎず兩學年生八十三名中京城に籍を有する者五十六名他は各道の出身にして其父兄の職業別は商二十六農十七工一官吏二十九無職九なり本年の入學者は四百三十名の志願中より試驗の上五十二名を採用したるものにして何れも日語を解し通譯を用ひずして諸學科を教授せるが成績極めて良好なり此等韓人學生には政府より補助金を以て每年一人に付五圓以内の範圍を以て學費を給與し居れり夜學專修科は修學年限二箇年にして本年四月より新設し國語、外國語(英、韓)商業要項、算術、簿記、商業地理、法制經濟等の學科を授け一學年生七十二名二學年生四十八名ありて共に日本人なり第二學年生は元京城夜學校(京城敎育會經營)の學生を收容したる者に本年の募集生中より學力ある者を加へたる者にして兩學年生共晝間業務に從事せる者多く即ち百二十名中官吏(給仕を含む)五十三名銀行會社に勤務せる者四名其の他の使用人二十四名商業に從事せる者十四名工四名其の他二十名なり此の科は既に規定の人員を超過せるも六月初旬迄は尚新入學を許可す而して入學を志願する者は一、年齢十二才以上にして高等小學校第二學年修業又は此と同等以上の學力を有し二、品行方正にして三、身体強健なる事を要し授業料は一箇年金壹圓なり(未完)

●經濟研究會設立

韓國實業家趙鎭泰氏其他の發起にて經濟研究會を設立することゝし左の趣意書を發表し本日午後二時公洞趙仁植氏宅に於て開催すると云ふ

經濟研究會趣意書

國の國たる民を以て本と爲す民の民たる業を以て本となす國際の強弱文野の區別概して實業の隆否に在るや論無し我韓東方天府の地を以て氣候適順土地豐沃陸の礦產海の漁業世界各邦に讓らずして而して實業程度至幼至穉研究思想極て偏狹其自國の天產を擧て總て外人の唾涎に供し以て今日の萎弱を見る歎ずるに勝ゆ可けんや今や世界日に鬪け人類繁殖の時に際し生存競爭優勝劣敗諺として眼前に在り屑越時を費し偷安姑く息ふ斷じて國民の義務に非らず玆に衆智衆力を合し士農工商の事業に關し參互改良務めて擴張を圖るを期す之れをして相勸めて前進せしめんとす諸君子旃を勉めよ

發起人

趙鎭泰、李容植、金任珣、金永振、趙秉澤、柳瑾、李容復、高淳在、朴相弼、金正穆、鄭東植、金重培、成文永、禹泰鼎、鄭雨興、徐相薰

●官吏被撰擧權

居留民團法施行規則第十七條第一號官吏は居留民會議員の被撰擧權を有せざることに規定しあるが右の官吏中には休職官吏及韓國政府に聘用中の者を包含せりとの通牒を統監府より各理事廳に發せりと云ふ

●夏季教員講習會

京城教育會にては昨年の例に倣ひ本年八月六日より向三週間夏期教員講習會を京城第二尋常高等小學校に開催し手工及び法制經濟の二學科を講習する筈にて之が講師は文部省及統監府に委托して目下人選中なりと云ふ

●高等女學校開校式

新設民團立高等女學校にては來月二十三日午後二時より伊藤統監初め在留官民及び新聞記者等數百名を招待し盛大なる開校式を擧行する筈にて夫々案内狀を發したり

●淸國人祝賀會景況

一昨日午後六時より中華會館に於て淸國人側の開港二十五年祝賀會あり京城より馬總領事列席し來賓としては信夫理事官、富田民長、金府尹其他の演說あり午後九時宴を閉ぢて海岸埋立地に出で同所に於て淸國固有の壯觀なる烟火を打揚げ主客十二分の歡を盡して散會せり尚當日の來賓は信夫理事官外日本人十餘名新聞記者等なりき

●伊太利鑛業家來韓

韓國に於て鑛山會社の代理人たる伊太利モラチ技師は本年一月歸國後病氣に罹り居りしが全快し來月初には本國出發來韓すと云ふ

●嚴柱益の渡日

韓太子學事御近狀視察の爲近々日本に向け出發すべしと云ふ

●近事片々

▲總選擧の結果政友百八十六進歩七十五大同卅二猶興廿五無所屬六十先づ豫想の通也

▲其中猶興無所屬に十八位の政友派贊成者あらむ然らば政友派は僅に可半數を得む

▲選擧は西園寺内閣の勝利に歸したり然るに辭職せねばならぬとは倩も因果の話也

▲政友派の多數を制したる政府の手心にも依らむが自由黨時代の餘波尚存ずる故也

▲地盤の尚確き板垣伯及當年の自由黨員が遣せし賜決して伊公西園寺の御陰ならず

▲一去一來近々伊公歸東之と同時に曾根子來ると何ぞ往復の頻繁なるや御苦勞千萬

▲太閤樣の征韓に當路あり今日も御渡海明日も御渡海其頻繁を想像せられて可笑し

▲一去一來各道書記官去り觀察使來る何ぞ其往復の頻繁なる門外漢の片々呆るゝ耳

▲政治と云ふもの斯くも往復の頻繁を要するや韓諺曰く韓國は鴨雁の國也何の事か

▲從五位の下にして執權たりし北條は廉吏靑砥藤綱を地方に巡回させ能く民を治む

▲薄政とは簡易にして民を安せしむるにあり韓國の現狀北條氏の政策に鑑る必要也

▲上に虛榮者あり勞ひ繁文褥禮に奔る韓國地方の改善は泰時の質素簡明を學ぶべし

▲說有伊藤公歸東後統監を辭し淸國に遊び曾根子統監たらむとは眞乎何ぞ巷說多き

▲此說若し眞とせば曾根子の統監は考物最も背後に強力の聲援あらば敢て不可なし

▲是に關聯し總務長官を廢し參與官長となし鶴原君依然之に坐ると之も些と考物也

▲近時統監府の暗鬪沙汰稍々聽へず韓人に對しても面目玉を潰す愼重の体度を取れ

▲米國國務卿排日抗議を日本政府になす之れ協約により絕對に勞働者渡航を禁せよ

▲些少の勞働者が紛れ込んだ爲に此抗議に遭ふ霞ヶ關の之に對する回答こそ聞まほし

▲林董氏の外交は圓滿過ぎて後患多しイヤ小言は言ふまい最早辭職に間も有まい売

▲漢口に亦暴動起り日本商店及日本人の襲擊されたる者多し今尚ほ甚だ危險なりと

▲雲南の革命軍漢口の暴徒淸國何ぞ匪亂の多き事ぞ平和の爲に帝國一臂の力を要す

▲淸國の暴徒韓國の暴徒我海外發展の先驅者に禍の下ること多きや何れも威壓必要

▲玄暎運夫人として名高き貞氏玄君を捨てゝ朴永吉と契り手を携へて全州に遊びし

▲然るに亦厭きて朴氏を捨て群山より船にて上京の途に就けりと才婦多情末路如何

▲而も庇髮白粉濃厚淡鼠縮緬の羽織に雪駄チヤラ〳〵日本婦人と見擬ふ計の風姿也

●富田民長其他の入京　仁川民長富田耕司商業會議所會頭原修一郎議員加來榮太郎の三氏は去る十七日擧行せし開港二十五年祝賀會に列席されたる伊藤統監以下各貴紳へ答禮の爲め昨日入京せり

●統監府屬出張　統監府屬小田信治同猪俣武夫氏は仁川、木浦、群山の民團事務視察の爲め廿六日頃出發せらるゝ由

●小笠原氏の出張　小笠原金三郎氏は殖產金融調査の爲め新義州、平壤、鎭南浦へ出張を命せられ不日出發の筈

●辭令(五月十九日)　任統監府屬一級俸下賜　從七位勳六等　八木親豊

●光濟號晝餐會　來る二十三日關稅總長永濱盛三氏は京仁官民及新聞代表者を招待し光濟艦上に晝餐會を催す由

公人私人

△中田篤次郎(會議員)原金鑛館へ投宿

△デーベックハム(米國人)同上

△島喜久雄(日本鋼形肥料株式會社創立事務所員)浦尾へ投宿

△志賀直温(總武鐵道會社員)同上

△多賀高延(春川觀察道書記官)十八日着任

●仁川水產會社の落成式　一昨日午後四時より仁川水產株式會社の新築落成式擧行されたる列席者數百名酒間阿嬌數十名の手踊あり頗る盛會なりき

●富田民長其他の入京　仁川民長富田耕司商業會議所會頭原修一郎議員加來榮太郎の三氏は去る十七日擧行せし開港二十五年紀念祝賀會に列席されたる伊藤統監以下各貴紳へ答禮の爲め昨日入京せり

●統監府屬出張　統監府屬小田信治同猪俣武夫氏は仁川、木浦、群山の民團事務視察の爲め廿六日頃出發せらるゝ由

●小笠原氏の出張　小笠原金三郎氏は殖産金融調査の爲め新義州、平壤、鎭南浦へ出張を命せられ不日出發の筈

●辭令（五月十九日）　任統監府屬一級俸下賜　從七位勳六等　八木[illegible]

●光濟號晝餐會　來る二十三日關税總長永濱盛三氏は京仁官民及新聞代表者を招待し光濟號艦上に晝餐會を催す由

公人私人

△[illegible]　投宿　△デーベックハム（米國人）同上　△島喜久雄（日本鋼形肥料株式會社創立者）浦尾へ投宿　△志賀直温（總武鐵道會社員）同上　△多賀高廷（春川觀察道書記官）十八日着

●仁川水産會社の落成式　一昨日午後四時より仁川水産株式會社の新築落成式擧行さる列席者數百名酒間阿媛數十名の手踊あり頗る盛會なりき

●強盜逮捕　▲强盜は東亞開進教育會員▼

南部山林洞四十五統九戶に居住する李基俊（十九）及び中署仁峴統戶不詳李德景（二十）の兩名は共に法相趙氏の率ゆる東亞開進教育會員にして執事員其他の肩書を有する者なるが右の兩名は豫て中署寺洞下青石洞居住の安元明（二十）と共に各地を徘徊して善からぬことをのみなし居りしが前記三名は中、西、南、各署の管内數ケ所に於て强盜を働らきたること發覺し此の程中署の手に逮捕されて目下取調を受けつゝあるが其の自白に依れば强奪金品は千圓近くに達し尚安山郡方面に於ても三四百圓に相當する物品を强奪したりと

●原田氏慘殺暴徒銃殺　昨年江原道鐵原に於て同所郵便所員原田新太郎氏が暴徒の毒刄に罹り非業の死を遂げられたることは其當時の紙上に記載せしが朔寧守備隊にては去る十日同地東面隔靜里方面偵察中暴徒二名大豆及び米百七十九俵を掠奪して韓船三隻へ積載し將に出帆せんとするに會したれば直ちに右暴徒二名を捕へ穀物は所有主に還附し之を尋問したるに一名は暴徒の首魁にて鐵原に於て日本人參名を殺害せしことを自狀したり左れば原田氏を殺害したるも此賊なること明かとなり然して此首魁は玄明植と云ふ者にて其夜二回迄も逃走せんと企てたれば直ぐ銃殺したりと尙一人の部下は權プーヨと云ふ者にて兩三日中に斷首すべき筈なりと原田氏の友人より原田氏宅に通知ありたるが原田氏も之を以て幾分慰むる所あるべし

●飲代踏倒しの一策　大和町一丁目の建築受負業長谷太郎方に居れる庄司節三郎（三十）佐々木倉吉（六十）渡邊清吉（六十）山田音吉（七十）の四名は去る十八日の夜金は無いが一杯飲める工風はあるまいかとの動議に音吉が諸葛孔明も跣足で逃げるほどの妙策奇謀を案じたりと言へるより然らばとばかりに進軍すべしとて四人隊を作つて大和町三丁目の東洋樓といへる小料理屋に陣を進め酒は伊丹でなければ口に合はぬ肴は鮪に限るた酌も美形でなければ飲めぬなどゝ氣を吐かし揚句に五圓六十六錢といふ散財をなし扨勘定といふ一段になつて實は誰れも持ち合せて居らぬから一寸待つて呉れ宿へ歸つて持つて來るまでとて第一番に庄司が逃げ去り三十分計りして庄司が何故來ぬか一寸歸つて見るとて佐々木が逃げ去り又三十分ばかりして奴等はどうしたのであらうか僕が歸つて見やうとて渡邊が逃げ去り又暫らくして山田音吉が奴等は不都合極まる僕が歸つて始末をつけるからと體よく逃げ去らんとするを最前より其の擧動に不審を懷けるこゝでどつこい夫れはならぬと引留め無錢遊興者として警察署へ屆出たるより巡査が出張して殘り居れる音吉を引立て連れ行き取調中なるが三名の者は其の由を傳へ聞き蒼くなつて其の消息を窺ひ居れりと

堅薪、松薪　松葉、松炭　木炭、松枕木

京城旭町四丁目　諸官衙用達　眞下大吉（電話九六八番）

●職人体の男轢死　去る十六日午前十一時京城發の急行列車が忠淸南道金義郡小井里の停車場南方約二十丁德坪面酒店里を通過の際突然傍らの低地より駈け出て轢死したり此の報に接し大田警察署の警部代理受持巡査吉井喜之助氏出張し檢視せしに咽喉部を切斷し首は軌道より三尺ばかり離れし所に飛びて俯向になり居り身分は職人と思しく山本と染拔きたる紺法被を着し白木綿の腹卷をなし東京神田區同朋町十八番地大工南實卯藏と記せし名刺を所持し居れりと其の死因に就ては更らに知り得べからざるも去りとは不分別の男といふべし

●韓人の行倒れ　一昨十八日午後六時頃光熙門外南標里峴に於て變死韓人あることを光熙門派出所の李巡査が聞き込み其旨銅峴分署に急報したるを以て巡査部長嶋托稔等時を移さず現場に出張したるに變死の場所は同門外右側の山頂より三間許り東にて五十四五位の韓男一名仰向けに仆れ居り頭を北向にし左の手は頭上に上げ右手は腹部に乘せたる等他殺の疑ひは無く醫師の檢案に依り病死したる者と判明したるが着衣其他に依りて察すれば多分乞食の行倒れとなりたる者ならんと何處の者とも判明せざるを以て屍体は成規の手續を以て假埋葬に附したり

●俗調●　吉崎御坊

洒落れて居るぞへ紺屋の夫婦色を自慢に日を送る

酒よ藝妓と騷だ末は何時も頭痛のあたまわり

逢ふた京城で恨も晴れて主に折られた角の攜

●受負吹の隱れ坊　南山町三丁目の淸水彌三郎が度支部の工事を受負ひたるにつき同町二丁目の木村兼佐が金主方となり彌三郎が度支部より三千六百五十圓を受取る委任を受け之れを引當に工事費を貸與し度支部より千四百五十圓を受取り尙は殘額二千二百圓受取るべき權限あるに去る十八日突然委任を解除するの通知來りしより兼信は大に愕き彌三郎に面會して談判する所あらんと急ぎ其の宅を訪ひしに堅く戶を塞して他に轉居したるものと思しく其の行先地不明なるより兼信は二千二百圓を棒に振ることかと蒼くなつて彌三郎の處を搜索方を警察署へ願ひ出たるが彌三郎は何かの都合あつて一寸隱れん坊したるものにて警吏の手によりて發見せられ兼信と面會せしめられしが如何に談判せしやら

●英國皇帝と葉卷　近着の歐字雜誌によれば英國皇帝エドワード三世は葉卷烟草の通人なるが昨年ニューヨルクに注文したる葉卷の代價は千本七百五十磅なりしが本年の注文は千本三千八百磅にて一本我八圓程のものなりと

●オルガン寄附　本町二丁目日韓書房は今回京城民團立高等女學校へ紀念としてベビー形オルガン一臺を寄附したり

●汎愛扶植會員出發　目下滯京中なる大阪汎愛扶植會員の一行は本日平壤に向つて出發する筈なり同一行が過日歌舞伎座に於て催せし演藝會は頗る好況なりしが其收支決算は左の如くなりと

總收入高	一金千二百二十三圓十五錢
内譯	
觀覽劵寄贈金（但有志者扱）	一金七五四、〇〇〇
觀覽劵臨時引換金（但會場前扱）	一金六五、二〇〇
特別寄贈金	一金一八八、〇〇〇
慈善菓子益金	一金一五、九五〇
總支出高	一金三百八圓十七錢
内譯	
本隊一行滯在費	一金九八、五〇〇
開會費	一金九二、〇〇〇
旅費	一金六五、一五〇
印刷費	一金二〇、〇〇〇
準備金	一金三二、五二〇
純收入高	差引金七百十四圓九十八錢



祝停解

最も進步したる世界の文物を味はゝんとし給ふ諸彥は請ふ常に日韓書房の圖書文房具陳列場を御來觀あらん事を

●汲水夫大金を落す　南署双林洞に居住する韓人汲水夫朴景文と云ふは十七日夜懇意にする仲間の某々兩名と附近の韓人居酒屋にて飮酒したるを其際朴は豫て虎の子の樣に大事にする韓錢五百兩（十圓）を何時の間にか遺失したるを其の當時は醉中にて氣附かざりしが翌日に至り初めて夫れと心附きて俄かに狼狽し當夜飮酒したる關係者一同と新町派出所に訴し出でたりとは呆やりしたる男と云ふべし

●天秤棒を振り廻はす　明治町三丁目の下宿屋明治館に下宿する魚商田中太平は同宿同商人吉田源次郎（二）の請ひにより金三圓を貸與し去る十八日は其の返濟期限なるに何たることも言ひ出でぬを以て催促せしに源次郎は不法にも其の催促が氣に喰はぬとて天秤棒を振り廻はし亂暴を爲せるより警吏が出張し器物破損料として金一圓三十錢を支拂はしめ尙は三圓をも至急返付すべき旨を說諭して事濟み

●學校から歸らぬ　曙町の左官職白井吉次郎の二男利太郎（八つ）は去る十八日午前八時學校へ登校して夜に入るも歸り來らざるより兩親の氣遣ひ一方ならず心當りの向を搜索せしも更らに手掛りを得ざるより警察署へ搜索方を願ひ出でしが其後如何せしや

●雞卵を碎いて十五錢　愛知縣の者にて日出町に住し井戶堀を業とする加藤音次郎（六十）と云へるは昨十九日午前九時南大門の市場に至り長洞の雞卵商成敬先が販賣し居れる雞卵を買はんとて腐敗し居るや否やを撿する爲め一個を透し見る際誤つて取落し破碎したるより其の一個代を負けて呉れよといひしに敬先がこれに應せざるとて此の餓鬼奴といひさま手を以て其の頭部を毆りしに敬先は驚いて手に携ねたる雞卵入りの藥包を取り落し雞卵八個を破碎せしより其の代を呉れよ拂はぬとの悶着となりて警吏を煩はし音次郎は代價十五錢を支拂ひ尙は將來を訓戒せられ這々の体にて引取りたり

●韓人の醉狂　十八日午後十一時卅分頃南署美洞牛肉商曹韓和方に金春化（九十）と稱する汲水夫入り來りたるが金は何處にて喰し召したかしたゝか濁酒に醉いて居りたるにぞ何も無きことより喧嘩をれッ始めたるを仲裁するものありて双方共美洞派出所の御厄介になりて引取る

●質屋の鼠の喰荒し　大和町邊に質屋あり此處に飼はれ居る白鼠に何次郎（二十）と云ふがあり主人の覺へ目出度ければ融通の道も多少利くと云ふ所より躰に似合ぬ望みを起し我れも一たび鼠となりて住み込みし上からは帳簿筒の前にキチンと坐り帳面と首引きして大黑見た樣に燻ぼりて計り居つた所が何で世の中が面白からうやと彼處此處の料理屋飲食店淫賣屋を足の向き次第に飲み廻り居るも僅かの給金にてそうは金の續く筈はなく去りとて一日も女の顔と酒の香を見ずしては癡の虫が開かざれば近頃は主人の名を僞りては其處此處に只飲みをなし居る由何れは帳簿に大穴を開くる代物なるべしとの投書ありたり

新茶着荷

富士の里茶舖　京城本町五丁目

●尋ね人●　鹿兒島縣國分村の出身佐土原岩熊、山元盛祐、大山岩右エ門の三氏現住所御承知の方は京城新報紙上に於て御教示下されたし（山元）

●歌舞伎座藝題　歌舞伎座に於ける片岡長太郎一座本日の藝題は前「伽羅仙代萩」切「三勝半七酒屋の段」にして重なる役割は左の如し

沖の井、鐵之助、半七（嵐吉右衛門）八汐、外記左衛門、長太（澤村竹三郎）賴兼、民部婆（市川團升）榮御前（市川紅三郎）高尾、小巻三勝（中村翫枝）加藤太（市川染之助）政岡、勝元、半兵衛（黑谷市鶴）仁木彈正、宗岸（片岡長太郎）